

2021 年度学校自己点検・自己評価報告書

2022 年 5 月

学校法人 ISI 学園 専門学校 東京ビジネス外語カレッジ

2022 年 5 月作成

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	1	基準 4 教育成果 専門課程	17
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	1	4-18 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	17
1-2 学校の特色はなにか	2	4-19 資格取得率の向上が図られているか.....	18
1-3 学校の将来構想を抱いているか.....	2	4-20 退学率の低減が図られているか.....	19
基準 2 学校運営	4	4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	20
2-4 運営方針は定められているか.....	4	基準 5 学生支援 専門課程	22
2-5 事業計画は定められているか.....	4	5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	22
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	5	5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	23
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか.....	6	5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	24
2-8 意思決定システムは確立されているか	7	5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか.....	24
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	8	5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか.....	25
基準 3 教育活動 専門課程	10	5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか.....	25
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	10	5-28 保護者と適切に連携しているか.....	25
3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか.....	11	5-29 卒業生への支援体制はあるか.....	26
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか.....	11	基準 6 教育環境	28
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか.....	12	6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか.....	28
3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか.....	13	6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか.....	29
3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか.....	13	6-32 防災に対する体制は整備されているか.....	29
3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか.....	15	基準 7 学生の募集と受け入れ	31
3-17 資格取得の指導体制はあるか.....	16		

7-33	学生募集活動は、適正に行われているか.....	31
7-34	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか.....	32
7-35	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか.....	32
7-36	学納金は妥当なものとなっているか.....	33

基準 8 財務 34

8-37	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか.....	34
8-38	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか.....	34
8-39	財務について会計監査が適正に行われているか.....	35
8-40	財務情報公開の体制整備はできているか.....	35

基準 9 法令等の遵守 36

9-41	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか.....	36
9-42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか.....	36
9-43	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか.....	37
9-44	自己点検・自己評価結果の公開はしているか.....	37

基準 10 社会貢献 39

10-45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか.....	39
10-46	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか.....	40

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	4	学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などは、当校のホームページ、入学案内書に明示。コース別教育目標も示されている。	理念・目標・育成人材像の浸透は図られている。世界パンデミック、ロシアによるウクライナ侵攻等で変容する国際経済社会での教育指針の常なる再検証は必要。
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	2021年度から2023年度の中期ビジョン戦略マップ「FY2021-2023 中期経営計画」を掲げ、戦略目標・数値目標を達成するための KPI を確立している。	具体的な計画・方法は実行を伴わないと意味がないので、その実行力をきちんと人事評価することでPDCAサイクルを循環させる。
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	3か年に1回時代の変化に対応し、中期計画を立て、本校のバランススコアカード、戦略目標を立てている。	日本人学生、保護者の方を始めとするステークホルダーの方々のニーズを常に吸収するとともに、アンテナを高く張る必要がある。
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	5	教職員には学内に学校法人 ISI 学園の理念が記載された額を掲示しており、学外には学校案内書・ホームページで広く公表している。	教職員にはグループ全社を挙げて行う年度初めのキックオフミーティングで周知徹底されており、学生には在学中のオリエンテーションで年に数回周知できている。

1-2 学校の特色はなにか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	5	2021年5月1日現在、計21か国、292名の日本人・外国人留学生在籍している。各コースにて企業との連携を強化し最先端の教育コンテンツが準備できている。	就職では質の高い企業への就職内定率100%を実現させること。デジタル・ビジネスコースが2022年度に初めての卒業生を輩出するため、学生のニーズに合わせた進路の多様化を実現する。

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	5	時代の変化に合わせて3年ごとに中期計画を策定し、そこから戦略マップ・戦略目標・KPIそして個人目標へと落とし込んでいる。	経済社会構造、留学生の国際移動の変化など、動きを敏感にキャッチしての授業カリキュラム構成、就労支援や募集活動に活かしている。東京商工会議所学識委員（校長）、スマートシティ・インスティテュート等、外部団体にも参画。政府のデジタル田園都市国家構想の方針等も視座に置く。

総括	課題及び改善内容
<p>理念・目的・育成人材像が抽象的になるのを避けるため、9 項目の行動指針を策定し具体的な実践をするようにしている。並びに中期計画では上記の理念等を普遍の原理とし、バランススコアカードに基づく戦略マップに落とし込み、戦略目標・数値目標・KPI を明確にし、一人一人の教職員がそれに沿った形で個人目標を半期ごとに立てるようにし、人事考課を行っている。</p> <p>予測できない変化に柔軟に対応するためにもダイバーシティ学校運営を基軸に本校の将来構想を考えている。国際社会のニーズの変化に柔軟に対応しながら、絶え間ない教育改革に努め、日本人学生と外国人留学生が 1:1 で学ぶ環境の整備、そして新たな価値提供を図っていく。</p> <p>長引く新型コロナウイルスの影響により、前年度から引き続きオンライン授業の実施、学内の情報システムの充実等デジタル化を進めることができた。今後、予期しない事態に遭遇した場合でも学習の機会が奪われることのないよう対応できる教育改革を進める。</p>	<p>2021 年度、デジタル・ビジネスコースが開設し、2022 年度は完成年度を迎えることも踏まえ、より優秀な日本人層の拡大を図っていく。</p> <p>日本人学生・保護者・業界・出身高校からの信頼を基盤にしなが、政府のグローバル人材育成施策に沿った学校創り、運営をさらに加速度的に進めていく。これまでのグローバル社会の概念の変容に注視しつつ、学校全体がデジタルシフトを実現できるコース構成を進めていく。</p> <p>前年度に引き続きコロナ禍におけるオンライン授業等のデジタル化を推進してきた。今後、新型コロナウイルス以外にも急な社会情勢の変化にも対応できる教育体制を作っていく必要がある。</p>

基準 2 学校運営

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	5	『FY2021-2023』中期経営計画をもとに年度ごと戦略目標・数値目標・KPIを策定し、戦略マップに基づいて学校運営BSCを設けている。	今年度は中期3か年計画の2年目であるが、長引く新型コロナウイルスの影響で修正を余儀なくされた点もある。変化の激しい時代に適応しつつ次年度に向け新たな経営計画に基づいた運営が必要である。
2-4-2 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	4	全体会議であるキックオフミーティングで説明し、ファイルサーバーにも保存をしていつでも閲覧できるようにしている。	学校内での運営方針は共有されているが、部門間シナジーが完璧に図られているとは言い難い。来期に向けて改善が必要。
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	4	学生スタートブック・教職員ガイドブックにて細かく諸規定を記載し配布している。	設定した諸規定をさらに浸透させるよう努める必要がある。

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	4	『FY2021-2023』中期経営計画に基づいて、2021年度の年度目標を設定し、学校の目的、目標を達成するために事業計画を個人目標レベルにまで落とし込んでいる。そして年間スケジュールに沿って事業計画を進めている。	教育の質向上に向けて取り組みを実施している。加えて、ブランディングに取り組んでいる。現在、新コースの完成年度に向けての準備、また各コースの再編とカリキュラム改革の検討を始めている。これに合わせて、教育内容の見える化にも取り組んでいる。これらに向けて、さらに検討と実施をしていく。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	4	事業計画に沿って運営をしているが、コロナ禍における急な対応が求められることもあり余裕を持って日常業務を遂行することができないこともある。個人の努力で運営をするのではなく、チームで運営していけるよう組織力も強化していく必要がある。	長引くコロナ禍における急な変更や対応もあったが、日々の変化に柔軟な対応のできる適応力の向上が必要である。

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-6-6 運営組織図はあるか	5	運営組織図はきちんと作成されており、グループウェアでいつでもだれでも確認できるようになっている。	特になし
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	5	理事会・役員会は定期的開催されており、運営組織・意思決定機能は学校の目的・目標を達成するための効率的なものになっている	特になし
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	5	役職ごとの研修会で、役割基準の浸透を図り、職務分掌表で教職員一人一人の職務分担が明確になっている。	特になし

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4	2021年度に当校卒業の新卒者の採用により事務職員1名補充となり、組織運営は安定している。また事務局において業務の効率化を進めるためRPAの研修などを定期的に行っている。教務では、都市工学博士を迎え教育コンテンツの新たな価値創造に向け動き出している。	2021年度の開始したRPAなどの研修を活かし次年度以降業務の効率化を目に見える形で推進できるよう計画している。 教務では新たに迎えた講師を中心に新たな教育コンテンツの見直しを行っている。 教育の質的向上、出口戦略強化などに対応する有効人材確保のための人材構築制度の確立を検討
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	5	人事考課制度は整備されており、具体的且つ詳細なものがグループウェアでいつでも閲覧できるようになっている。	より高度化を検討
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	5	人事考課制度に詳細に昇進・昇格制度が記載されており、グループウェアでいつでも閲覧できるようになっている。	より高度化を検討
2-7-12 賃金制度は整備されているか	5	給与規定がきちんと定められており、グループウェアで閲覧できるようになっている。	より高度化を検討
2-7-13 採用制度は整備されているか	5	ISIグループのホームページ上で「求める人材」として5項目の条件を明示しており、個々の採用ステップについても明確になっている。	履歴書・職務経歴書による書類審査を通過すればwebによる適性検査を行う。その後面接により「求める人材」に合致するか採用可否を決める。
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	5	豊島区に教職員の異動があった場合、採用届・解職届を提出しなければならず、教職員名簿も併せて提出している。	特になし

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	5	毎週行われる定例会議で審議事項を討議し、最終的に校長の承認を得るシステムが確立されている。また2021年度より役職者によるマネジメント会議を実施し、意思疎通、意思決定の円滑化を図った。	2021年度より、定例会議の他、役職者によるマネジメント会議を実施し意思疎通、意思決定が円滑にできるように改善を図った。今後もさらに円滑できるように努める。
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	5	毎週行われる定例会議の他、役職者によるマネジメント会議にて審議事項を討議し、最終的に校長の決済により意思決定する仕組みが制度化され、昨年度より円滑な仕組みとなった。	2021年度は役職者によるマネジメント会議の実施により意思決定のプロセスがより円滑になった。開催初年度であることも踏まえ更なる改善点がないか検討も必要である。
点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	5	会議体系に加え、日々の稟議に関してはグループウェアで階層別に決裁権限が割振られスムーズに承認を得るシステムも確立している。	学校運営に必要な人材の確保と育成に関して研修制度が導入された。教職員の定着と各教職員の着実なスキルアップを図っていく。 前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により内外を含め、オンラインによる研修に参加できる機会が増えた。今後もこういった研修の増加も見込まれるため積極的に活用していきたい。

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	4	<p>2020年度の情報システムの強化により、2021年度は、継続するコロナ禍において、Wi-Fi環境の強化、オンライン授業対応のため各教室のプロジェクター、ウェブカメラ、スピーカー等を活かした授業を展開した。</p> <p>また Campusmate-J での学生の各種申請が本格化し、オンライン授業が多くなった環境でも申請が円滑になりつつある。</p>	<p>インターネット通信が不安定な場面も見られたが前年度より大きく改善している。2022年度以降、全学生が対面授業となった場合でも通信に不具合がないかなど確認する必要がある。</p> <p>Campusmate-J を通じた学生の申請が主流となり、新入生は原則的には Campusmate-J での申請が主流となった。一部の学生にはうまくオンラインでの申請ができないケースもあり継続指導が必要である。内容によっては全部をオンラインに移行することで不便になることもあり、証明書などは卒業生などのため窓口での申請も残しておくなど、臨機応変な対応を精査する必要がある。</p>

総括	課題及び改善内容
<p>今後展開が拡大するであろう企業連携などの諸規定整備も進めていき、明確でスムーズな学校運営に努めていきたい。</p> <p>学校の目的・目標を達成するための事業計画をきちんと立て、バランススコアカード（BSC）に落としこみ、その計画にそって運営している。より状況を掴むため会議などでチェック・修正・改善できるよう運用面も工夫したい。</p> <p>学校法人 ISI 学園並びに ISI グループでは、人事や賃金、処遇に関する制度は整備されている。また学園で使用しているグループウェアにそれら諸規定が保存されており、いつでもだれでも閲覧できるようにしている。</p> <p>勤務管理や交通費精算から稟議書までありとあらゆる業務を、グループウェアの E-SYSTEM を活用し、情報システム化による業務の効率を図っている。</p> <p>2021 年度は Campusmate-J により学生が証明書、公欠、個人情報変更などのオンラインでの申請が可能となった。</p>	<p>今後多様化する学生ニーズに応えるためにも、新規事業としての拡大を見越した諸規定整備を進めていく予定である。</p> <p>事業計画に沿って運営されているかチェック・修正・改善を図る時間をきちんと設け、完全な形で運用できるように努力していく。</p> <p>上述した通り、2021 年度に事務局 1 名、教務部 1 名人材を強化することができている。このことにより現状業務の質の向上を図るとともにこれからの時代、学生のニーズに応えることのできる教育コンテンツの展開を進めていく。</p> <p>2021 年度の学生による Campusmate-J での申請が可能となったが、学生により活用が不十分であったり、手続きによっては窓口対応の方が円滑なものもあるので、活用についての指導、状況に応じた臨機応変な対応が必要である。</p>

基準3 教育活動 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	本校では、GBC 総研主催「教育課程編成委員会」に参加し、連携している企業・専門家からアドバイスを、その他の支援を受けている。 また、委員会にて得た業界の動き・ニーズ、求める人材像などの情報をもとに、カリキュラム、科目についてチェックしている。 加えて学内において、定期的カリキュラム編成のための部会を設置し、各学科コースのカリキュラムについて検討している。	数年にわたる新型コロナによる経済社会変化、国外での政情等、常に大きな動きがあるため、それらの状況に遅れることなく、教育内容を充実させていく。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を養成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	4	本校のシラバスは、カリキュラムをもとに、策定している。 各科目の到達目標を設定し、その目標に向かって、段階に応じての小目標も設定している。 各目標は、業界からのニーズ、求める人材像を念頭において策定している。 目標の到達に関して、見える化を進めており、資格対策/受験、成果物の作成等を行っている	新型コロナの影響も含めて、求められる技能がより多様化している。特に ICT 関係については、より一層の知識、技能が求められると思われる。 本校では、この点を重視し、教育内容に盛り込んでいく。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	4	例年通り、経済社会のニーズに対応できるように編成し、在籍期間中、スムーズに指導・学習できるようにしている。	定期的カリキュラム、授業科目を見直していく必要があるため、引き続き、検討・改定をしていく。 現在、授業内容等の大幅見直しを開始しているところである。
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	4	本校では、①内部にカリキュラム検討会（各種の科目担当者会議にて）を設置し、内容の検討を実施している。その結果を、②外部機関（企業、GBC 総研等）から意見を聞き、カリキュラム修正等に反映させている。	今後も企業関係者から意見を聞き、業界情報や求められる人材像をもとに、カリキュラムに反映させていく。加えて、企業との連携や業界関係者による授業や講演を通して、実施しており、今後も継続していく。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	5	本校の各学科コースのカリキュラムは学内の教職員による検討会（教務会議、科目担当者会議等）で検討し作成している。	引き続き、学内で科目担当者会議を開き、カリキュラムの検討会を実施していく。
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	5	定期的にかリキュラム内容の見直しを行い、新年度にて、新カリキュラムとして実施する流れにしている	現在、各コースのカリキュラム内容の改定に向けた検討を始めているところである。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	4	カリキュラムに従い、授業科目について、毎年、内容確認・検討を重ね、必要な場合、修正・新科目の設定等を行っている。 現在、新しいカリキュラムによる体制作りに向けて、検討を行っている。	2021年度に開始した新コースのデジタル・ビジネスコースも2年目となり、それに合わせて、他コースの授業内容等の検討を行っている。 2024年度を目標に新しいカリキュラム/授業科目で実施予定である。
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	5	毎年、本校指定のフォームをもとにして、シラバスを作成している。特に大幅な改定はないが、より分かりやすいシラバス作成を心掛けている。	シラバス作成のフォームにおいて、時間がかかるという課題があり、別のフォーム等の検討を始めているところである。
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	5	授業担当教員に、前期・後期にそれぞれ、研修会を実施し、教育目標の確認、シラバス作成についての指導を行っている。	本学指定のシラバスシートをもとに作成しているが、今後も改善に取り組んでいく。

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-14-10 学生による授業評価を実施しているか	4	前期と後期の2回、「学生満足度アンケート」を実施している。リアクションペーパーなど学生にわかりやすいアンケート内容を検討し、実施している。	現在、評価方法、アンケート内容についての検討を行っており、より質の高い評価方法の実施を目指している。
3-14-11 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	4	アンケート項目において、授業評価、授業満足度について確認できるように検討し、関連項目を入れている。	より分かりやすい（評価しやすい）アンケート方法を検討している。

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-15-12 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	4	教員・講師採用において、本校勤務に見合う人材の選定を行っている。学歴・経歴だけでなく、学生目線に対応できる点も考慮して選考している。	教員ガイドブックを作成し、本校の理念・教育目標、授業や学生指導の在りについて理解してもらっている。 昨年度と同様に、採用方法について、より強化し、優秀な人材の確保育成に力を入れている。
3-15-13 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	4	授業科目にある専門性の高い教職員募集に力を入れている。加えてデジタル化に対応できる人材登用に力を入れている。	昨年と同様に、本校にて勤務している教員に、情報リテラシー指導を行い、本校のデジタル教育体制の強化しているところである。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-15-14 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	5	本校では、専門性及び学校勤務の適性関係について適切に見ている。また ICT も含めて、教育の高度化に向けた研修を実施しているところである。	評価方法について、偏りがないように、評価項目、内容等、多方面から評価・判断できる方法を検討し、改善している。また教育技術の研鑽を目的に各教員の専門領域での体験談や論文をまとめた紀要の作成を企画中。
3-15-15 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	5	学校主催にて、研修会を年 2 回実施している(3月、9月)。今年度も、オンライン授業方法、教育のデジタル化について研修をし、適切な使用方法、注意事項等を追記した。	デジタル化推進により、個人情報保護やセキュリティ関係が重要になっており、それらについての意識付けなどを研修にて行っていく。
3-15-16 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	4	教授力の把握について、研修会や担当講師との面談等を実施している。	教授力の向上のための努力などの評価についても検討していく。
3-15-17 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	4	学習分野、科目ごとに担当教員が集まり、定期的にミーティングを定期的実施し、教授力アップに力を入れている。	昨年度と同様に、オンライン授業方法についての指導方法、教授力アップに力点が置かれた。またオンライン授業と対面授業との差、乖離している点、オンラインの良し悪しなどの分析を行い、質の高い授業について検討している。
3-15-18 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	4	科目・分野間でのミーティング等での連携が取れている。同時に、本校の教職員による全体での交流、中核講師による横の連携・支援ができています。	違う分野/授業担当の教員間で交流し、より良い授業作りをめざしている。
3-15-19 非常勤講師間で適切に協業しているか	4	本校では科目担当の専任教員が軸となり、非常勤講師をまとめているが、ベテランの非常勤講師が中心となり、若手の講師への支援を行っている。担当科目内で非常勤講師たちがまとまっているところが強みである。	デジタル化推進、オンライン授業関係にて、非常勤講師が相互に支援しあうことが多く見られた。新規に導入された機器操作等の支援でもこうしたことが見られた。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-15-20 非常勤講師の採用基準は明確か	5	本校では、講師の採用には非常に厳しい基準（授業力、人間性、本校理念との適正等）で臨んでいる。	授業科目を適切に指導できることに加えて、デジタル教育に強く、学生管理のできる人材の確保・育成にさらに力を入れていく。既存の非常勤講師にも指導と支援をさらに行っていく

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-16-21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	本校では、成績及び単位認定評価について、明確な基準にて行っている。 年2回の期末試験を実施し、試験点、出席点、平常点による総合的な成績評価、及び単位認定を行っている。	成績・単位認定について、より明確化のため、GPA評価を利用している。学内表彰、奨学金等の利用にて、効果が出ていることもあり、次年度はこれを拡充していく予定である。
3-16-22 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	5	提携大学との単位互換・単位認定ができるように、検討を続けている。 上記をもとに、国内外の大学等に交渉をしているところである。	引き続き、評価・認定については、内容やフォームの標準化・明確化を進めている。 現在、学期途中に発生する単位互換についても検討しているところである。

3-17 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-17-23 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	5	毎年、学園にて、教育目標を定めている。これをもとに、各ポリシーを作成し、学科コース、カリキュラム等の、目標・資格を設定している。	経済社会状況の変化に合わせて、定期的カリキュラムの見直し、関連資格の設定、といった機会を作り、教育目標・資格等について検討をしている。目標と関係のある資格選定を今後も行っていく。
3-17-24 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	5	目標に合わせた資格選定を行い、授業を展開している。	毎年、ターゲットにする資格を検討し、学生への告知、指導を続けているが今後も、強化していく。

総括	課題及び改善内容
<p>本校では、経済社会の変化を見つつ、社会の求める人材作りに向けた教育を実施している。ここ数年間に起きたコロナとそれによる社会の変化は、ビジネスの在り方はもちろん、国民生活にも大きな影響を与えた。一方、この大きな変化によって、新たに必要になったこともあり、それに対応できる人材作り、そして教育体制の再構築が必要になっている。</p> <p>こうした状況の中で、本校は、デジタルを駆使して活躍できる人材育成のコースを立ち上げ、また既存のコースについてもデジタル化による教育をすすめているところである。</p> <p>現在、2024年度に向けて、新たなカリキュラムによる教育体制のスタートに向けて、検討しているところである。</p>	<p>社会に大きな影響を与えているコロナによる経済社会の変化は、ビジネスの在り方、人材の質にも大きな変化を与えることになった。この変化に対して、今、どのようなことが必要になっているのかをとらえ、教育に組み込んでいく必要が出てきている。</p> <p>本校では、このことを念頭に置いて、情報収集はもちろん、企業や専門家などとの交流、各種の集まりを通して、分析と課題解決の方法を探り、実施していく必要がある。</p>

基準 4 教育成果 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

4-18 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-18-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	ISI グループにて、キャリアセンターを設置し、就職・進学関係の支援・指導に力を入れているところである。また本校に、キャリア指導の職員を常駐させ、進路指導対応ができる体制になっている。	外国人留学生の国内就職は、新型コロナの影響でインバウンド向けの求人は大幅に減少した。卒業生就職率の改善を図るためにより一層の求人数増加、学内説明会を増やし、個別支援体制の強化が課題である。
4-18-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	進路結果について、定期的に動向がわかるように、情報収集・整理と、分析できるように、様式、データ整理ができています。	学生との定期面談、連絡、報告体制を整備しており、情報の把握・内容更新ができるように努めている。

4-19 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-19-3 資格取得率の向上が図られているか	4	本校では、各学科コースの共通分野として、社会分野、語学関係の資格受験を勧めている。英語では TOEIC を中心に、英検、IELTS を奨励し、留学生には日本語能力試験（JLPT）を奨励している。社会分野では、ビジネス実務マナー検定の対策授業を行っている。デジタル・ビジネスコースでは、1年次で AI の資格（日本ディープラーニング協会の G 検定取得に向けた授業、2年次から AAW 社の RPA 資格）取得に向けた授業を展開しているなど、学科コースごとに、専門の資格の対策授業を行っており、教育目標の達成と並行して授業を実施している。	資格対策授業の課題として、個々人の学力差が変わらず、大きな課題となっている。学科コースの専門授業では、大きな差が出ないが、語学関係では、差が大きくなってしまい、クラス分けによる授業体制にしている。
点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-19-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	例年通り資格取得状況は、定期的に確認し、個々人の獲得状況について整理できるようなファイルを作成し、状況を把握できるようにしている。	現在、面談やアンケートといったことを通して、取得状況を把握しているが、CampusmateJ などの導入により、自分でも取得申請ができるようになっていく。自己申請率アップが課題となっている。

4-20 退学率の低減が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-20-5 退学率の低減が図られているか	4	<p>入学後、定期的／不定期的に学生と面談を実施し、目標設定等を通して、学業意欲の維持・向上に向けての努力をしている。</p> <p>定期的な面談を実施し、卒業まで、学習生活、進路相談等を行いながら、学生支援を行っている。</p> <p>不定期的な面談では、学習や進路、個人的なことについての面談も実施している。</p>	<p>退学に関して、支弁関係が理由によるものがみられる。この対応として、奨学金や給付金などの利用を進めている。また学生面談を通して、学生の生活面を確認し、様々な支援をしているところである。</p>
4-20-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	5	<p>学内で人数を把握している他、管轄の豊島区、東京入国管理局に在籍についての情報を提出しており、定期的に人数を把握できる体制になっている。</p>	<p>定期的に豊島区、東京入国管理局（留学生）に退学者数、その推移を提出している。</p> <p>数の推移を見つつ、退学者を減らす各種の指導を実施している。</p>

4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-21-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	3	学内に、卒業生との交流のできる同窓会を設置済みである。ウェブサイトなどを活用し、本校への連絡ができるようにしている。 今後も卒業生との交流に力を入れていく予定である。	卒業生数が増えており、国内外で活躍していると思われるが、まだ得られる情報が少ないところである。ウェブサイトだけでなく、他の SNS を利用して、卒業生からの情報を収集していく予定である。
4-21-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	3	卒業生の活躍について、数少ないものの、企業での活躍や、起業等についての情報がみられるようになった。マスコミなどによるものはまだ見られないが、今後期待したいところである。	まだ大きな特筆すべきものはないが、卒業生の活躍に期待したい。TBL の制度を活用して留学した学生には大使館、先端分野企業での勤務者も増えており引き続きフォローする。
4-21-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	3	昨年度に引き続き、新型コロナの影響もあり、各種のイベント関係は自粛となった。学内での小単位の発表会等に留まっている。	今後、アフターコロナによる回復を期待し、内外のイベントやコンテスト参加をしていきたいと検討しているところである。
4-21-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか。	3	昨年度と同様に、新型コロナの影響により、目立った動きをすることができなかった。	前述と同様に、回復を期待し、内外のイベントやコンテスト参加をしていきたいと検討しているところである。2022年度は、まず、TBL 内でのベンチャーピッチ開催を計画している。

総括	課題及び改善内容
<p>専門学校という高等教育機関として、本校は、優秀な人材を社会に送り出すため、学生と関係を密にしつつ、高度な教育の場を提供することを念頭に、授業とキャリア指導を実施している。</p> <p>その成果として、就職内定数（率）を重要視している。2021年度は、昨年度と同様に、新型コロナの影響が残り、厳しい環境下にあった。しかし、昨年度の厳しい状況下での経験を活かし、授業に力を入れ、学生指導/進路支援の強化を行った。結果、昨年度より高い成果とはなった。ただし、コロナ前の水準になるまではなっていないため、次年度は一定の水準に戻るようしていきたい。</p> <p>加えて、教育体制や授業内容をより高いものにするため、2024年度に向けて検討を進めているところである。</p>	<p>本年度は、昨年度の厳しい状況で行った様々な対応の実施、それに関連する活動経験をもとに、学生支援・指導を行った結果、成果を上げることができたが、コロナ前の水準までには達していない。このため、次年度は、本年度の成果、問題課題を分析し、強化策を立案し、実施していく予定である。</p>

基準5 学生支援 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-22-1 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	キャリア支援担当を設け就職・進学ともに適正人員を配置し、授業や個別相談体制を敷いている。	就職支援強化策として非常勤を採用し1年秋より「就職連続セミナー」を実施。日本人学生を中心として就職活動の早期化を実現。 組織変更に伴いキャリア支援担当の所属部署が本部から学校現場へ移行し教務との情報共有が促進されたものの更なる連携強化が課題。学生の個別支援のより一層の強化も同様である。
5-22-2 就職に関する説明会を実施しているか	4	キャリア支援担当・担任による就職ガイダンス、合同企業説明会を定期的に行っている。	授業内での企業説明会を計画的に実施し、内定率向上に寄与した。
5-22-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	4	1年次は前期と後期の年2回実施。2年次は随時キャリア支援担当職員並びに担任が学生個別面談を実施している。	特になし
5-22-4 就職の具体的な活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	4	就職希望者に対してキャリアデザイン、就職指導、PCの授業内で履歴書の書き方や面接の仕方に関する指導を行っている。	留学生に対して、日本独特の就職活動を理解させる必要がある。キャリアデザイン授業等で日本文化の背景及び慣習を教えるカリキュラムをより一層良いものとする。

5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-23-5 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	全クラス担任制を敷き、個別面談も年に4回実施している。加えて事務局でも学生相談に乗る体制を整備し、有効に機能している。 事務局でも学生相談、人権に関する研修に積極的に参加し実際の学生相談に活用できるよう努めている。	まだまだ学生相談に関する体制は個人のスキルによるところが多く完全なものとは言い難い。次年度に向け専門相談員の配置が決定している。 引き続き、学生相談に関わるカウンセリング等の研修等に教職員が参加する機会を増やし、学生相談に役立てたい。
5-23-6 学生相談室を開設しているか	3	個別に相談できる相談ブースと会議室を併用して運用している。担任による個別相談は行っている。 2021年度にあっては前年度に引き続きオンラインでの個別面談も実施した。	プライバシー空間は会議室のみなので、会議等で使えないこともある。計画的な運用を検討。
5-23-7 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	3	キャリアコンサルタントは常時いるが、その他専門カウンセラーはいない。担任による個別相談を中心にカウンセリングを行っている。	メンタル面での不調を訴える学生も増えてきているので、次年度に向け専用カウンセラーもしくは専門の研修を受けた職員の配置が決定している。
5-23-8 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	4	外国人留学生が在籍していることから留学生に対する学生相談体制は教務・事務局連携の下、体制は整備され、有効に機能している	留学生のメンタル面での相談体制はまだ脆弱で、医療機関と連携しながら留学生のメンタル面の相談に乗れる体制構築が必要。

5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-24-9 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	3	経済的側面だけではなく学費減免制度を設け、学生の経済的側面に対する支援を全体的に整備し、有効に機能させている。 文部科学省よる修学支援の新制度が2020年度から始まり、学内の減免制度に加えて経済的サポートが充実した。2021年度はさらに多くの在学生在が申請し採用されている。	学生の経済的状況に特化した支援制度が未整備のため、高等教育段階における負担軽減制度を機に整備していく。
5-24-10 奨学金制度が整備され、有効に機能しているか	4	2年次になるときに、審査の上認められた一部の学生に対し特別学習奨励費を支給している。公的な奨学金制度の活用も併用している。	特になし
5-24-11 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	3	学費の分納制度は設けられており、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能している。	特になし

5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-25-12 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	5	外部の医療機関に委託をし、年に1回学校に来校いただき、全学生の健康診断を実施している。	特になし
5-25-13 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	4	学生の健康管理を担う組織体制は事務局で分担しており、事務局が主体となって学生の健康診断を実施している。	事務局で学生の健康管理を担っているものの、日常的な健康相談には乗れないため、学校医や地域医療機関との連携が必要である。
5-25-14 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	4	学生からの健康相談等に専門に応じる学校医はいるが、こちらからの要請に応じて対応する体制である。	体制を見直し、常にカウンセリングができる状況を整えた。

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-26-15 スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	3	学生サークルでは「英語サークル」がこれまで積極的に活動していた。また、地域の豊島区役所、目白警察署と連携して語学支援ボランティアに取り組んできていたが、2020年度以降はコロナ禍により従前のサークル活動等ができない状態であったが、そのような状況の中でも、学生によるフットサルサークル、屋上緑化プロジェクトが開始された。	サークル活動は新たにフットサルサークル、エコサークルの活動が開始された。今後もサークル活動の立ち上げを支援していきたい。

5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-27-16 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5	ISIグループで学生寮2棟を備えており、遠隔地出身者のために支援を行っている。寮の管理人もおり、生活環境適応支援も行っている。	現状、学生寮を使用する学生が少なく、生活環境支援としては整っているが、あまり活用されていないのが現状。

5-28 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-28-17 保護者と適切に連携しているか	4	日本人学生については担任と保護者とが日常から連携しており、外国人留学生の保護者は、英語・中国語等を駆使しながら可能な限り連携を行っている。	留学生に限っては、まだ一部スタッフのみの対応となっているため、非常勤講師も含め複数で対応できる体制を整える。

5-29 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-29-18 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	3	2018 度に同窓会組織を立ち上げて以来、コロナも影響し活発な活動を行えていない。	今後は、卒業生の自主的な活動を支援し、広げていくようにしなければならない。このミッションを担当することを業務の一つとする TBL 新卒者の採用が、卒業生であることを活かした同窓会の組織づくりを進めていく。
5-29-19 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	3	同窓会組織を立ち上げたが卒業生をフォローアップする体制がまだまだ未整備。毎年学園祭に卒業生が来校できるよう整えていく。当校卒業の新卒職員を採用したことから、卒業生のフォローアップ体制を進めていく。	卒業生のポータルとなる HP の整備は行ったが、卒業生が積極的に参加できるイベントなどを更に充実させていきたい。当校卒業新卒職員を中心に同窓会、卒業生のフォローアップ体制を整えていく。

総括	課題及び改善内容
<p>就職については就職希望者内定率 100%から逆算し、カリキュラム化、シラバス作成を推進している。そして効果的な説明会をどのタイミングですか戦略的思考が必要である。</p> <p>すべてを教職員で対応しようと思うと、特にメンタル面での不調を訴える学生への対応は難しくなり、やはり専門的な研修を受けるなど、専門カウンセラーによる相談体制等の整備が必要になってくる。ただ教職員と学生の距離が近く、面倒見の良い点は本校の特徴でもある。</p> <p>コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底しながら、新たにフットサルサークル、エコサークルの活動が開始された。</p> <p>日本人学生については担任と保護者とが日常から連携しており、外国人留学生の保護者は、英語・中国語等を駆使しながら可能な限り連携を行っている。</p> <p>就職については前年度に引き続きコロナ禍で厳しい状況ではあった。今後も長引くコロナ禍を見越して戦略的な就職指導が必要である。</p>	<p>キャリア支援担当スタッフと担任とが連携した学生指導を確立させ、毎年就職内定率 100%を実現していくために、社会のニーズに合わせて就職指導内容を改善していく。</p> <p>カウンセリングの研修や専門カウンセラーによる相談体制を見直し、常にカウンセリングができる状況を整えた。</p> <p>高等教育の修学支援新制度（無償化制度）の対象校となり、支援制度を充実させることができている。</p> <p>保護者の連携について、留学生に限っては、まだ一部スタッフのみの対応となっているため、非常勤講師も含め複数で対応できる体制を整える。</p>

基準 6 教育環境

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-30-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	本校では前年度キャンパスのリニューアル工事を行い、教室、受付、事務室の全面改装工事を行った。また全館でのWIFI環境の強化を図った。2021年度中は前年度不具合のあったWi-Fi環境の強化をした。	電子黒板やネットワーク施設をフル活用するために教員・講師がICT環境を活かした授業展開をし、教育の質の向上に努めたい。
6-30-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	4	法定点検、日常メンテナンス共に体制は整備されている。校舎の耐震診断が完了し、2020年度中に耐震工事の予定がコロナ禍の影響で2021年度に延期となり実施された。	日常メンテナンスに関してはルーティンでチェックできる体制が整っている。次年度は、外壁工事（非構造部材の耐震対策）、自家発電（防災機能強化事業）に向けて準備を進める必要がある。
6-30-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	4	法定点検は、指摘事項に則り計画的に遂行している。今年度は耐震工事が実施され完了した。	次年度は外壁工事（非構造部材の耐震対策）、自家発電（防災機能強化事業）を計画している。

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-31-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	4	グローバルビジネス学科 2 年次にシンガポールの MDIS、フィリピンセブでの集中英語研修など、教育体制を整備している。また、ハンガリーのメトロポリタン大学への交換留学が今年度も実施され、定着したものとなって来ている。デジタル・ビジネスコースにおいては英国・ミドルセックス大学との 2+2 留学制度の合意が成立している。	今年度は、新型コロナ影響のため、中止・延期が見られた。 このようなことから、国内からでも学習できる方法（オンライン留学）も検討する。同時に、このような外部環境変化に屈することなく、提携先を増やしていきたい。
6-31-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果をj確認しているか	4	学外実習やインターンシップ共に定期的に報告を受け、教育効果を確認している。	今年度は、学外学習やインターンシップの中止・延期のため、限られたものだけになったが、次年度は、企業、その他の外部機関と連携して、数を増やしていきたい。

6-32 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-32-6 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	4	防災に対する体制は、整備されている（体制図、避難経路、備蓄等）。地元警察や消防署と連携し、避難訓練も年 1 回通常は実施しているが、新型コロナウイルスの影響により 2021 年度は校舎内外での避難訓練の実施ができなかったが、東京消防庁の防災動画などを学生と視聴するなどのオンラインでの防災教育を行った。	整備された防災体制を有事の際に活かす為にも、実践に即した訓練を行い、PDCA サイクルを着実に回していく。 次年度はコロナ禍でも実施可能な避難訓練または防災教育ができるよう努めたい。
6-32-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	4	法定点検にて指摘された事項に則り、整備を行っている。担当者から関係者に周知、共有していく体制を整備している。	校舎の老朽化並びに設備・機器の経年劣化に伴う災害を起こす対象を関係者で把握し、全教職員が認識する体制整備が必要。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-32-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	3	本校は語学・ビジネスの専修学校ということもあり、実習時等の事故は考えにくいですが、学生保険に加入するなど事故対策を取っている。	実習時の事故は考えにくい分野ではあるが、事故防止に対して常に気を配る体制整備をしていかなければならない。
6-32-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	4	通学途中・教育活動中の事故に関する損害賠償保険には学生全員加入している。また、本部と連携した防災組織も整えている。	災害被害に対しての保険が免責事項もあり、今後更に補償範囲の広い保険への切り替えも検討したい。
6-32-10 防災訓練を実施しているか	4	防災に対する体制は、整備されている（体制図、避難経路、備蓄等）。地元警察や消防署と連携し、避難訓練も年1回実施している。	整備された防災体制を有事の際に活かす為にも、実践に即した訓練を行い、PDCA サイクルを着実に回していく。

総括	課題及び改善内容
<p>2021 年度前年度に引き続きコロナ禍によりは海外研修に参加する母数は少ないものの、グローバルビジネス学科の海外研修は他にはない訴求力のあるプログラムとなっている。英語キャリアの短期留学も着実に実績を積んでいる。インターンシップもカリキュラム化されており実施も安定している。</p> <p>年に1回防災訓練を豊島消防署、目白警察署の協力も得て実施していたが、長引くコロナ禍の影響で2020年度は実施できなかったが、2021年度は豊島区消防署の事前指導の下、オンラインでの防災教育を行うことができた。</p>	<p>今後、施設面として、校舎の耐震化工事に着手しなければならないが、学園本部と連携して次年度以降に向けて計画的に準備していく。</p> <p>更にインターンシップの比率を増やししながら、体系だったカリキュラムとデュアル教育の展開を図っていく。</p> <p>次年度はコロナ禍でも実施可能な避難訓練または防災教育ができるよう努めたい。</p>

基準 7 学生の募集と受け入れ

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

7-33 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-33-1 学生募集活動は、適正に行われているか	5	適切な情報提供や、問合せ・資料請求への即時対応、定期的なイベント開催、コロナ禍のオンラインを活用した活動、学校への訪問活動など、学生募集活動は適正に行われている。	コロナ禍でのオンライン対策や高校の進路指導とそのスケジュールと連携するなど、適切なタイミングで、より多くの入学希望者と学校に本校の魅力を伝えていく。
7-33-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	5	本校では学校案内で教育内容・教育成果を含む学校情報が示されているとともに、募集要項を日本人用と留学生用として2種類作成し、入学希望者に理解できるよう配慮している。デジタル社会の新しい2年制カレッジ像を打ち出すべく、全面的に学校案内を改定した。	今後、WEBを活用した学生募集広報をさらに強化、充実させていく。
7-33-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	5	本校には独自の入試・広報窓口があり、志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制が整備されている。	特になし
7-33-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	4	定員充足に向けて、日本人学生募集を強化して広報・募集活動を行っている。	引き続き日本人学生募集強化を推進する。

7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-34-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	4	専門学校において就職実績は重要な位置を占めるため、その教育成果は学生募集において正確に伝えられている。就職実績や資格取得実績を取りまとめて発信している。	卒業生に関しては、取材等を行い、卒業後の活躍の状況を把握し、学生募集に活用する。
7-34-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	5	卒業生の活躍の教育成果が学生募集にどう貢献したかを正しく認識するために、学生にアンケートやインタビューを実施している。	引き続き、卒業生の活躍の教育成果を学校案内等で正確に伝え、学生へのアンケートやインタビューを継続する。

7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-35-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5	入学選考は、書類審査・筆記試験・面接試験と設け、合否判定基準に照らし合わせて適正かつ公平な基準に基づき行われている。	特になし
7-35-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	関係者のみ閲覧可能なデータベースで選考状況を管理し、合否判定会議のたび更新することで、入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握している。	特になし

7-36 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-36-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	5	本校の教育内容に照らし合わせて、学納金は学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっている。	特になし
7-36-10 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	募集要項において、初年度学納金とその内訳、2年次の学納金とその内訳を明記し、入学希望者に周知徹底している。	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>本校では外国人留学生も入学することから、その募集と受け入れについては、これまでの成績や本校での学習意欲はもちろん、経費支弁能力までも審査した上での厳しい選抜を実施している。また本校では優秀な学生を確実に出席してもらおうという観点で募集戦略を展開しており、各高等学校や日本語学校との関係構築に努め、厳選した指定校推薦制度を導入することによって、確実に質の高い学生の確保に努めている。出席優秀者や成績優秀者には学習奨励制度を設け、人物・成績共に優秀な学生を積極的に受け入れるとともに、模範的な学生はきちんと評価されるということを新入生にもきちんと示し、目標意識の高い学生確保の施策としている。</p> <p>また関係者のみ閲覧可能な入学選考に関するデータベースを管理・更新することで、入学選考に関する情報を一元管理し、その推移を学科ごとに正確に把握している。</p>	<p>2022年度募集の入学試験合格者のうち日本人比率は1/3とまだまだ高いとは言えない状況。日本人比率を50%以上にすることが本校の目標であり、今後の課題といえる。今年度新設したコースでの日本人増を目指して更なる強化をしていく。</p> <p>日本人学生を増やすために、入試広報センターと学校現場がさらに連携を図り、授業や資格取得対策の状況や学生の成長などを定期的に発信することにより募集活動を改善化していく。</p> <p>また入試広報センターから志願者に対して、本校の独自性や魅力をWEB上や進学イベント等で積極的に発信していく。</p>

基準 8 財務

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-37-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	中長期的に本校の財政基盤を支えるものは、入学者数によるが、新型コロナウイルスの影響により留学生の絶対数が激減し、その影響もあり 2022年度は定員に届かない状況であった。	中長期的に本校の財政基盤を安定したものとするためには、入学者の安定確保であり、募集がどれだけ順調に伸びるかが重要である。今後、長引くコロナ禍で留学生数が減少することもあり日本人入学者の割合をさらに増やし安定的な入学者の確保が急務である。
8-37-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	4	本校の主要な財務数値に関する情報とその推移については正確に把握しており、不明瞭な点があればそのつど解決し、修正している。	特になし

8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-38-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	4	本校の年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものになっている。	特になし
8-38-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	4	予算案に基づいて計画どおりに妥当に執行されている。	特になし

8-39 財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-39-5 財務について会計監査が適正に行われているか	5	本校の財務について会計監査は適正に行われている。	特になし
8-39-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	5	妥当なものとなっており、会計監査実施後、理事、評議員に対しての説明も実施されている。	特になし

8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-40-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	5	会計年度の財務情報を学校法人 ISI 学園ホームページにて行っている	特になし
8-40-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	5	同上	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>長期的に本校の財政基盤を支えるために、入学者数の安定確保をいかに図るかが重要である。長引くコロナ禍の影響もあり 2022 年度は定員に満たない状況であった。</p> <p>主要な財務数値に関する情報については、予算案と齟齬が生じた部分等についてはその都度解決し、修正を行っている。</p> <p>本校の財務について会計監査は適正に行われており、会計監査を受ける側・実施する側の責任体制も明確であり、監査の実施スケジュールも妥当なものである。</p> <p>会計年度における財務情報を学校法人 ISI 学園ホームページにて公開している。</p>	<p>今後、長引くコロナ禍で留学生数が減少することもあり日本人入学者の割合をさらに増やし安定的な入学者の確保が急務である。</p>

基準 9 法令等の遵守

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-41-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	5	法令や専修学校設置基準等が順守され、適正な運営がなされている。	特になし
9-41-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3	幹部教職員への啓発活動は出来ているが、全教職員・学生に対する啓発活動は十分とは言い切れない。	外国人留学生も受け入れていることから、様々な面で法令や専修学校設置基準や東京都の指針を順守するようにしている。ただ教職員・学生等への啓発活動はこれから取り組むべき課題である。

9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-42-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	『学校法人 ISI 学園個人情報の取扱いについて』、『学校法人 ISI 学園個人情報の取扱いに関する同意書』に基づき、学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策を講じている。	学校が保有する個人情報保護のための対策は組織としてはかなり進んでいる。一方一人一人の教職員の意識改革、日常業務での個人情報取扱いに対する改善が課題としてある。
9-42-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	4	当校として個人情報に関する教職員・学生向けへの啓発活動を今後も積極的に取り組む。	個人情報保護に対する教職員の意識は一定レベルにあるが、定期的に教職員・学生等に対する啓発活動をより積極的に実施していく。

9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-43-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	4	2015年度より自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。	2015年度より自己点検・自己評価を定期的実施することに着手し、現在問題点の改善に努めている。
9-43-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	4	自己点検・自己評価の実施が2015年度からであり、年間スケジュールに組み入れ、全教職員で取り組んでいる。	自己点検・自己評価と学校関係者評価、そして教育活動のPDCAを有機的に組み合わせることが課題である。
9-43-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	4	2015年度より自己点検・自己評価の実施・公開に着手し、その方針は関係者に対して伝わっている。	これから毎年定期的実施するなかで自己点検・自己評価に関する方針を関係者に対して正確に伝えたい。

9-44 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-44-8 自己点検・自己評価結果は公開しているか	5	学校法人 ISI 学園ホームページに公開している。	特になし
9-44-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	5	自己点検・自己評価実施後は、速やかに、学園ホームページに公開することを決めている。	特になし
9-44-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	5	自己点検・自己評価の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっており、外部団体からも評価をいただくようにしている。	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>個人情報保護に関する取り組みは学校法人 ISI 学園としても明確に規定を定め、その対策に常に取り組んでいる。当校としては学園の方針、規定に沿って学校が保有する個人情報保護に努めている。</p> <p>自己点検・自己評価の実施が 2015 年度からであり 2022 年度には 7 回目を迎える。自己点検・自己評価の実施を重ねる中で方針を明確に確立し、関係者に対して正確に伝えていきたい。そして学外に広く公開することで、いろいろな方々の意見に真摯に耳を傾け、問題点の改善に努めている。</p>	<p>教職員によって意識差があり、総体的に意識向上させるための定期的な啓発活動がこれからの課題である。</p>

基準 10 社会貢献

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-45-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	4	企業・団体との連携はかなり進んでいる。地域との連携も目白警察署や豊島区、東京都との間で一定成果が見られた。	これから更なる「職業実践専門課程」の認定も視野に入れ、企業との連携を深め、産学接続プログラムの実施を始めていく。
10-45-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	2	空き教室がまったくなく、週末もオープンキャンパスや教室レンタルを行っているために行えていない。	教職員の出勤体制を整えば今後検討していく。ニーズの強いデジタル分野での付帯教育授業の検討を開始している。
10-45-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	3	長引く新型コロナウイルスの影響により TBL祭などの学校行事が中止となり地域の方、関連団体との連携のできる機会を設けられなかった。	今後はコロナ禍でも実施可能な行事の運営を検討する必要がある。
10-45-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	3	アメリカ、カナダ、イギリス、豪州、ハンガリーなど諸外国の高等教育機関と 2+2 コースを推進している。 コロナ禍で実施が一時的にできなくなった留学については、実施できる時期になった後、円滑に留学が進められるよう準備を進めている。	コロナ禍の影響で 2021 年度は留学が困難な状況であったが、今後提携校からの交換留学の受け入れを進めていく。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-45-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	4	防災上の問題については地域と連携し、取り組んでいる。 日本のデジタル化の遅れを理解した上でスタッフ全員がデジタルに関するオンライン研修を受講している。	BCPの策定、修正を毎年適宜行われている。 日本のデジタル化の遅れを社会問題として捉え各個人のスキルアップ、学校全体のデジタルシフトをさらに進める。
10-45-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	4	同上	同上

10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-46-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	コロナ禍で活動がしにくい状況であったが、エコサークルが発足し、また学校屋上にて豊島区緑化計画に貢献できる整えることができた。	今後参加者の増加、活動の活発化を促していきたい。
10-46-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	4	学生スタッフと教職員が連携を取り、良いサポート体制ができている。	引き続きこの体制を継続していく。

総括	課題及び改善内容
<p>社会問題として日本のデジタル化の遅れを理解した上でスタッフ全員がデジタルに関するオンライン研修を受講している。</p> <p>学生のボランティア活動については、長引くコロナ禍の影響により活動がしにくい状況であった中でもエコサークルが発足し、また学校屋上にて豊島区緑化計画に貢献できる整えることができた。</p>	<p>日本のデジタル化の遅れを社会問題として捉え各個人のスキルアップ、学校全体のデジタルシフトをさらに進める。</p> <p>今後学生のボランティア活動の参加者の増加、活動の活発化を促していきたい。学生スタッフと教職員が連携を取るサポート体制を継続していく。</p>

平成19年の学校教育法改正により専修学校における学校評価が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から本校においても「学校自己点検・自己評価報告書」を作成した。

2021年度の報告書においては、文部科学省が発行する「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に学内に設けた委員会で議論を重ねた結果、以上の通り自己点検・自己評価報告書を作成した。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ 自己点検・自己評価報告書を作成するにあたり学内に設けた委員会のメンバーは以下のとおりである。

2022年5月

専門学校東京ビジネス外語カレッジ 自己点検・自己評価委員会

校長	並河 克彦
事務局長	佐藤 貴志
教務部長	島田 昭仁
教務副主任	伊藤 玲
教務チーフ	川本 千陽
教務	新藤 俊哉
教務	梅田 拓
事務局チーフ	濱 裕樹
事務局	白 海蘭
事務局	志田 朱理
事務局	鴫巢 茉奈
キャリア支援担当	米村 真識